

日漢協コンプライアンス研修会

2026年3月19日(木)、KKRホテル東京「朱鷺の間」において、コンプライアンス研修会が開催された。本研修会は、会場参加と Zoom を併用したハイブリッド形式で実施され、会場26名、Web131名、計157名が参加した。当日は以下のとおり、2名の協会関係者が登壇した。

■「コンプライアンス遵守体制の構築と実践に向けた取り組み」

～信頼される漢方・生薬産業を目指して～

日漢協総務委員会 委員長 永野 聡氏



【永野 聡氏】

まず、「漢方の将来ビジョン2040」に掲げるビジョン6を踏まえ、会員会社における法令遵守体制の強化と信頼性向上を目的とした方針が示された。また、実態調査や研修会、会員会社への相談支援策が報告されるとともに、製造販売業者等に求められる法令遵守ガイドラインの考え方や、調査結果から見えた遵守状況と課題について解説が行われた。さらに、第2期5か年アクションプランに基づき、継続的な実態調査や研修等の実施、コンプライアンス担当者との連携を通じて、体制を強化し信頼向上を図る方向性が共有された。



【会場の様子】

■「大草薬品のコンプライアンスへの取り組み」

大草薬品株式会社 代表取締役社長 大草 貴之氏



【大草 貴之氏】

当社は、「品質の高い医薬品を製造販売することにより社会に貢献する」という経営理念のもと、コンプライアンスを経営の根幹に据えた取り組みを進めている。30人規模で本社と工場が一体となった体制の強みを生かし、法令遵守に対する強い危機意識を全社員で共有している点が特徴である。

コンプライアンスの考え方については、難解な用語を避け、現場で理解しやすい言葉に置き換えて周知し、指図書通りの製造、正確な記録、逸脱を隠さない姿勢を徹底している。経営計画発表会や全体朝礼、部門ごとの朝礼、入社時研修、逸脱時の再教育などを通じ、継続的な教育訓練を実施しているほか、日常業務の中でヒアリングや面談を行い、社員の意識や状況をきめ細かく把握している。風通しの良い職場づくりを重視し、内部通報に頼らずとも声を上げられる企業風土の醸成を目指す一方、今後は人材への依存からの脱却や、組織的な知識・意識の継承を課題として挙げ、なお一層のコンプライアンスへの取り組み強化を推進していく決意を表明した。

今回の研修会を通じて、協会が主体となり実態把握から課題整理、具体的な対応方針までを一貫して示すことの意義を再認識した。今後は、会員各社が自らの課題を自分事として捉え、業界全体で信頼性向上に取り組むことが一層重要であると感じられた。

特に、大草氏は講演で、コンプライアンスを単なる法令対応にとどめず、日常業務や企業風土としていかに定着させるかについて、具体的かつ実践的な事例を通じて示された。中でも、分かりやすい言葉での共有や、逸脱を隠さず改善につなげる姿勢、風通しの良い職場づくりの重要性は、会員各社にとって大きな示唆となった。改めて、現場一人ひとりの意識の積み重ねが、医薬品への信頼を支える基盤であることを再認識する機会となった。